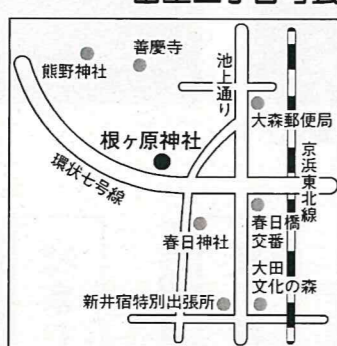


受賞おめでとうございます
(敬称略)

大田区自治会・町会正副会長永年在職感謝状
【20年在職感謝状】 鈴木 英明
東京都赤十字奉仕団功労表彰
◇金枠支部長感謝状(10年以上)
秋山 崇一 浦野 栄一 岡田 好司 金井 敏明
金堂 和典 白田知枝子 中屋 錦江 沼田 延
◇銀枠支部長感謝状(5年以上)
柿間 大輔 盛重 泰宏 菅原 未子 廣澤 洋子
福田千代子
大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰(10年以上)
菊池 司郎

「さくらトイレ根ヶ原」完成!

「さくらトイレ根ヶ原」は10月2日完成を迎えました。このトイレは根ヶ原神社の入り口に設置されました。根ヶ原神社の横には旧東海道から派生した道があり、その昔は奥州道・相州鎌倉道・池上道・平間街道などと呼ばれ、大切な街道でした。今でも大森駅に向かって、朝は自転車の行き来が多い場所です。東日本大震災の時は、人の流れがとどまることを知らず池上方面に列をなしていたことを思い出します。その道と環状七号線が交差するポイントに根ヶ原神社があり、災害の時は神社が町会の集合場所になります。春は桜の花見も行われる、山王三丁目にとって大切な場所です。ここに公共のトイレができたことは大変有意義だと思います。



編集後記

今年4月より中央一丁目町の編集委員になりましたが、まだほとんどお役に立っておりません。新井宿には通算で50年程住んでいますが、いまだ知らないことが多く、他の委員の方々に教えて頂いている次第です。
この地区では老人が増えてきていると思いきや、さにあらずマンション建設ラッシュで小学校の教室確保が大変なんだそうです!!
でも、新井宿で若い人が増え

るのはいいことですね。引き続き地域の皆様にとって有意義な情報を発信できたらと思っております。
今号では、新しい取組みとしてなされた「俳句と新井宿地区写真展のコラボレーション」を特集しました。写真展出品作品の印象をもとに、句を即興でつける試みでした。如何でしたでしょうか?
年末に向け寒さも厳しくなっています。ご自愛ください。(形見編集委員)

**障がい者総合サポートセンター
増築工事のお知らせ**

障がい者総合サポートセンター
日頃より新井宿地区の皆様には、障がい者総合サポートセンター(以下「さぼーとぴあ」) 事業にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
「さぼーとぴあ」では、隣接地(旧大森医師会館)にて増築工事をおこなっています。ここでは、「さぼーとぴあ」の機能拡充をし、医療的ケアもある重度の障がいのある方が利用できる短期入所と、学齢期の発達障がい児の相談から療育までの支援を実施する予定です。
工事は平成31年1月末までの予定で、作業は、原則平日午前8時から午後6時まで行っております。近隣の皆様には工事中、騒音や振動が発生する場合があります大変ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いたします。
今後も「さぼーとぴあ」では、障がいのある方だけでなく、障がいのない地域の方がどなたでも参加いただけるイベントを企画して参りますので、ぜひ気軽に遊びにいらしてください。

**大森第三中学校
「開校70周年記念祝賀会」開催**

10月21日(土)、大森第三中学校で開校七十周年記念祝賀会が盛大に開かれました。地域団体の代表、学校関係者など100名余が出席しました。
最初に、今年7月のダブルダッチ世界大会で総合優勝に輝いた現役中学生チームの縄跳びパフォーマンスが披露されました。続いて主催者挨拶と来賓祝辞があり、弦楽四重奏の伴奏で三中校歌を大合唱。
フィナーレは全員が鳴子を片手に「よさこい」踊り。賑やかに70周年をお祝いしました。



発行 地域力推進新井宿地区委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会

中央四丁目町会	編集委員長	若生 一 順
山王三丁目東自治会	副編集委員長	荒木 秀 樹
山王三丁目町会	副編集委員長	吉川 信 一
山王三・四丁目自治会	編集委員	三沢 清太郎
中央一丁目町会	編集委員	形見 俊 郎
中央一丁目町会	編集委員	関口 直 人
新井宿五丁目町会	編集委員	加藤 弘 子
新井宿六丁目町会	編集委員	雫本 まり子
新井宿六丁目町会	編集委員	松原 美枝子
新井宿七丁目町会	編集委員	落合 松 枝

……共同編集……
監修 新井宿自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央1-21-6 ☎3776-5391
<http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html>

「窓の向い」は「水彩画」
山王小6年
王 健鳴さんの作品

わがまち Araijuku
新井宿

地域に愛されるカフェを目指して
地域包括支援センター(さわやかサポート)新井宿 山田晃義

皆様は「認知症カフェ(オレンジカフェ)」というものをご存知でしょうか? 今から約20年前にオランダで発祥したと言われ、日本でもここ数年急速に広まっています。ネーミングから誤解を生んでしまいがちですが、原則カフェには老若男女誰でも参加出来ます。認知症当事者の方は勿論、そのご家族や関心の一般の方の参加も可能で、現実に参加者のかなりの部分が一般市民の方々です。つまり、「認知症の人もそうでない人も、みんなで集ってぶっちゃけトークでもしましょう!」的な感じのカフェなのです。



我がオレンジ茶房「縁(えにし)」は今年5月より、原則毎月第三水曜日に開催しています。その内容とは、音楽会を開催したりお笑いの方をお呼びしたり、勿論たまには? 認知症についての真面目な講座も開きます。つまり基本的な考え方が、「引きこもりがちになってしまう認知症の方々に、集ってもらい楽しい時間を過ごして頂く」という事なので、内容は何でもあり、なのです。

そんなまだ、生まれたてはやほやのカフェですが、地域の皆様の集いの場にしていただけたらと思っていますので、皆様のご参加心よりお待ちしております!
その他、大森医師会主催の医師による認知症カフェ「皆でがんばる認知症予防カフェ」も9月より開催しております。詳細は下記までお問い合わせくださいませ。



*** オレンジ茶房「縁(えにし)」**(予約不要です)
開催日: 原則第三水曜日 14時~15時半
参加費: 1回200円(コーヒー、紅茶等お代わり自由、お菓子も出ます)
開催場所: 大森山王居宅介護支援事業所(山王3-18-2 大森郵便局前)
お問合せ先: 地域包括支援センター(さわやかサポート)新井宿
(新井宿特別出張所2階 03-3772-2415)

行ってみました! 認知症カフェ体験談

9/20(水)、編集委員がオレンジ茶房「縁(えにし)」を訪問。参加者は総勢11人! 年齢層は高めでしたが、当事者の方は少なめ? プログラムは詐欺や悪質商法撃退についての講座で、消費生活センターの相談員の方が解りやすくお話をしてくださいました。最後にみんなで「里の秋」などの秋の歌を歌いました。

まずは○と×の紙を持って、心理テストで自分のタイプを確認。 : 小さいお教室なので、講師の目が届き、手を借りるこ
高齢者が不安な3Kは金(かね)、健康、孤独。これらを衝い : とも出来て、会話も楽しめるよう。何か作業をする時
て多様な詐欺がある。対策は、「簡単にセールスマンを家に入 : 等は1グループでまとまるのでは? テーマは毎月変わる
れない」、「契約をする場合は慎重に」、「簡単に儲かるものは : ようで、今回は「オレオレ詐欺」等の話。なつかしい
無い」、「振り込め詐欺対策に『自動通話録音機』を借りる」、「家 : 歌も歌い、わりと元気な方がいらしてる感じです。お
族、友達、まわりの人に相談する」。有意義なお話でした。 : 茶を飲みながら少人数で和が保たれて、楽しそう。
(加藤編集委員) : (松原編集委員)



俳句と写真のコラボレーション！！



10月3日～13日開催の「フォトフェスあらいじゅく 新井宿地区写真展」で行った、「展示の写真を見て俳句を作る企画」で寄せられた俳句をご紹介します。

選者 山根 繁義 氏
俳人協会 会員
山王三丁目町会句会 講師



受付の様子



会場の様子



祭りのコーナー
(熊野神社・春日神社・善慶寺)



帰ってきた「新井宿 昔と今の写真展」



A3の迫力のある写真

「空港の夜景でデート」懐かしい ナオミ

羽田空港のデッキから見た夜の風景

銭湯も本屋も失せて鰯雲 久美子

善慶寺入口の昔と今の写真で

朝靄の池の向うに秋の色 祐

志賀高原の木戸池の朝の風景

万灯会難持坂ゆく天の川 ひでき

池上本門寺お会式に於ける「善慶寺六士講」

天高し雲を引き連れ富士の山 紀美代

雲から出ない富士山の山頂が少しだけ見えて

萬緑や一本書きの滝を画く 祐

立山の急峻な「称名滝」の写真を見て

神輿背に絆が自慢我が自治会 由紀子

山王三・四丁目自治会の祭りの役員が勢揃い

秋の暮悔し涙のこま廻し 雅子

大人に教わり、夢中でこま廻しをする子どもたち

氷雪を纏うて木々は眠り込む 寿子

蔵王の樹氷の写真から

雲間から美しき富士春の旅 恵

夫が撮った、土肥から見た富士山で一句

江の電をゆれて見送る吾亦紅 和興

昭和四十年代の江ノ電で一句

漱石に憧れ花を追いまわし ひでき

愛猫、名は「ハナ子」

夜ふけてみこしおさめてまた二年 章抱

今年の熊野神社例大祭の宮入り写真を見て

秋寒し父を迎えに傘を持ち 弘子

昭和三十六年の大森駅西口の写真で思い出し

柳の芽通りに車を数えし日 順子

秋刀魚焼く路地に昭和を煙らせて 久美子

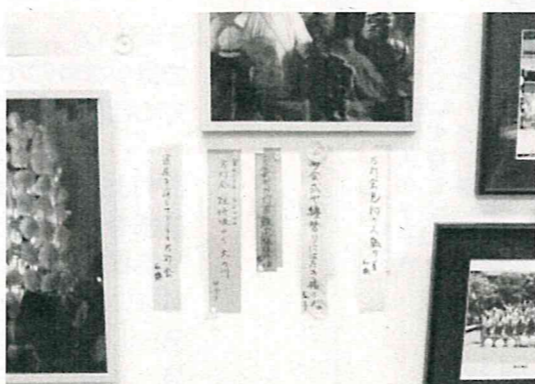
山王三丁目、中島病院前の昭和三十年代の写真に寄せて



鑑賞中



短冊に俳句を書いています



写真も俳句も力作ぞろいです

選者の言葉

10月に行われた新井宿地区写真展で展示された写真から数多くの俳句が生まれました。俳句と写真のコラボレーションによって、町の景色や自然風景、地域の祭り、日々の生活などの写真からさまざまな共感が広がっていきました。写っている風景を写生するように切り取って詠んだ作品や写真からあふれ出る情感を五・七・五で表現した作品など、目の前

にある写真と率直に向き合うことにより紡ぎ出されたものです。写真に写し出された事実とそれを見た人の感性が一つに結びついたときに俳句が誕生したと言えるでしょう。

ここに載っている作品は写真から感じ取った思いを端的に伝えようとしています。写真を実際にご覧になっていない方は、これらの俳句を読んでどんな情景なのだろうかかと想像してみてください。